

日本保健医療社会学会ニューズレター (No.125) 2023/9/20

目次

1. 学会長挨拶
2. 第49回大会報告
3. 第50回大会案内
4. 総会報告
5. 園田賞報告
6. 理事会報告
7. 定例研究会報告 (関東)
8. 定例研究会報告 (関西)
9. 看護・ケア部会報告
10. 渉外・国際委員会報告
11. 会員の動向
12. 編集後記

---

## 1. 学会長挨拶

2023年5月の大会総会で学会長を拝命いたしました金子雅彦（防衛医科大学校）です。新体制になって初めての理事会を8月3日に開催しました。従来どおり、学会大会の開催、定例研究会の開催、学会誌の刊行、会員への国内・国外情報の提供を主な活動とすることを確認しました。以下、理事会での協議決定事項を交えながら、ご挨拶いたします。

まず今年になって急速に台頭してきた生成AIへの対応です。日本の法律（著作権法）はAIの利活用を幅広く認めています。しかし、著作権保護が欧米諸国に比べて不十分ではないかなどの意見を受けて、政府（文化庁）はAIと著作権をめぐる法的な論点整理に関する議論を開始しました。生成AIに関する政府の動向や他学会の対応などについて、編集委員会が中心となって情報共有することになりました。

2023年春以降ポストコロナ期に入り、社会経済活動が完全再開され、日常が戻りつつあります。5月の学会大会も全面的に対面で開催されました。大会では、対面ならではの活発な意見交換が行われました。今後も学会大会は基本的に対面開催を模索していきます。他方、コロナ期にICTの活用が促進されました。単にコロナ前に戻るのではなく、ICTの活用が求められる場面では積極的に活用していきます。理事会はコロナ期同様に基本的にオンライン会議とし、経費節約に努めます。

来年の大会は第50回大会です。現在実りある大会にするべく、大会校と研究活動委員会を中心に企画を検討しています。本学会は前身の研究会時代を含めると、半世紀を迎えます。会員の皆様のお力添えをいただきながら、理事の先生方とともに、より魅力的な学会を目指して運営していきます。2年間、どうぞよろしくお願いいたします。

(金子会長)

## 2. 第49回大会報告

2023年5月27日～28日の両日に、東京都立大学荒川キャンパスにて、第49回日本保健医療社会学会大会を開催致しました。3年ぶりの完全対面開催とのことで、Covid-19感染者数の状況等を心配しましたが、大きな問題も起こらず、無事に終えることができました。ご支援をいただきました理事の先生方、ご一緒に企画・運営を行ってくださった研究活動委員会委員の皆様、大会実行委員長とはじめとした大会実行委員会委員の皆様が、そのつどの判断とお力添えを下さったおかげと思います。また、何よりも、231名という多くの皆様の参加があつての大会の実現です。盛り上げて下さいましたことを、この場をお借りして御礼申し上げます。

本大会は、メインテーマを「実践の場をひらく—研究の可能性の再発見」とし、そのテーマに3つの意味を持たせました。1つ目は、大会のサブテーマでもある「研究の可能性の再発見」です。コロナパンデミックによって研究を進めること自体が難しい時期が長く続きました。本大会は、感染対策をしつつ再開した研究の成果を、参加者皆で分かち合い、議論をし、保健医療社会学研究を元気にすることを目指しておりました。50件（口演47件+示説3件）という演題発表、そして、2日間の活発な議論は、この目的が十分に実現したことを物語っていると思います。二つ目は、研究によって実践の場に様々な意味を与えること、それによって「実践の場をひらく」というメインテーマが実現することを目指しました。コロナを挟んで長期にわたって行われた調査、実践に同伴した活動を伴う研究の報告からは、現場の多様な意味を理解しつつ、調査現場の方々と共にあるという研究の醍醐味を感じ取ることができました。それは、三つ目の目的である、研究によって得られる気持ちを分かち合うことにもつながっておりました。

特に、大会シンポジウムでは、エスノグラフィー、現象学的研究、エスノメソドロジーという研究手法の特徴、その手法によって明らかになった成果が報告されました。ご登壇の先生方の研究に対する情熱と開拓心からは多くを学ばせていただきました。会場とも、時間ギリギリまで活発な議論が続きました。医学教育と社会学教育WG主催シンポジウム「医学教育においてなぜ社会学を学ぶ必要があるのか」においては、カリキュラム改革の経緯や教育の実際等についてお話をいただき、多くの課題を乗り越えて現状に至ったこと、残された課題に対して保健医療社会学がいかなる貢献をしてゆけるか等々について、多角的な議論が行われました。いずれのシンポジウムにおいても、終了した後もなお、会場の皆さんとの交流が長く続き、新たな関係構築ができたことと思います。ここから新しい研究が生まれることを期待します。

同様に、7件のラウンドテーブルディスカッションでも、多様な課題が議論され、多くの交流がなされておりました。中には、次年度の大会、次々年度の大会につながるテーマもあり、本大会のラウンドテーブルが、各会場で作られた「輪」という意味のみではなく、過去から未来へと繋がる「輪」となっていることを実感させられました。初めて参加をした研究者も多くおり、この後、この輪を作る研究者となり、次の大会で新たな成果を発表して下さることを期待します。

第49回大会での研究交流が、今後、大きく実を結びますことを期待して、次の大会にバトンタッチを致します。

(第49回大会長：西村ユミ氏 [東京都立大学])

### 3. 第50回大会案内

50回大会は、メインテーマを『『弱い』ままで生きられる社会のために』としました。『弱い』まま生きるということはどういうことなのか、かつ、人が、『弱い』まま生きられる社会であるために、どんな研究・教育・実践活動をしていくことが重要なのか考えたいと思っています。さまざまな理由で、遠隔なら参加できる方もおられるので、登壇者を除き、完全事前申し込み制でWeb参加も併用していきます。開催日時は、2024年5月25日(土)、26日(日)。会場は、東京医療保健大学船橋キャンパスです。11月上旬にホームページ公開予定です。一般演題&RTD募集期間は、2023年12月5日(火)～2024年1月19日(金)17時を予定しております。

(第50回大会長：吉田澄恵氏 [東京医療保健大学千葉看護学部])

### 4. 総会報告

第49回日本保健医療社会学会大会(東京)の2日目2023年5月28日(日)に総会が行われました。総会議案書における各議案は以下の通りです。

第1号議案：2022年度事業報告

第2号議案：2022年度決算・監査報告

第3号議案：2023年度事業計画

第4号議案：2023年度予算

第5号議案：名誉会員の推挙

第6号議案：次期会長の推挙

第1号議案から第6号議案までは議案書に基づいて説明が行われ、承認されました。なお、第5号議案は規約第3条に基づき推挙された木下康仁氏が承認されました。また、第6号議案は規約第11条第4項に基づき推挙された金子雅彦氏が承認されました。

(戸ヶ里前理事：前総務担当)

### 5. 園田賞報告

若手研究者の研究奨励を目的に2006年度に設置された日本保健医療社会学会奨励賞(2013年度より「園田賞」)の2022年度受賞者は、選考委員会による審査結果の報告を踏まえ、理事会で審議の上、以下の通り決定しました。

受賞者：池田岳大

受賞作：「職業威信スコアに見る医療・福祉関連専門職の序列構造の推移およびその要因——ジェンダーの視点から」(『保健医療社会学論集』33巻2号、pp.81-91、2023年)

2022年度園田賞は、この年度に発行された本学会機関誌『保健医療社会学論集』(第33巻)に掲載された若手研究者による論文(総説、原著、研究ノート)を対象にして選考されました。

(天田前理事：園田賞選考担当)

## 6. 理事会報告

2023年5月15日(月)に2023年度第1回理事会、8月3日(木)に第2回理事会が開催されました。詳細は以下の通りです。

### 1) 2023年度第1回理事会報告

日時：2023年5月15日(月) 10:00~11:00

会場：ZOOM会議

出席者：小澤会長、戸ヶ里理事、天田理事、本郷理事、前田理事、田代理事、石川理事、朝倉監事、蘭監事、事務局 平野(国際文献社)

欠席者：井口理事、伊藤理事、心光理事

#### 1. 第49回大会および総会についての確認

小澤会長より総会の議長について総会前日に開催する評議員会にて出席する評議員へ依頼することが伝えられた。

#### 2. 大会時評議員会の議題について

小澤会長より、監査で指摘のあった編集システムの導入、ホームページリニューアル、生成系AIについて自由意見を交換する予定であることが伝えられた。

#### 3. 各担当の新旧担当者間の引継ぎについて確認

小澤会長より資料の通り、次期役員体制について説明があり、各担当間で引継ぎを行うことが確認された。

#### 4. 育志賞について

戸ヶ里理事より例年、園田賞受賞者が育志賞の条件を満たしている者を推薦することとしていた。今回の園田賞受賞者は条件を満たしていないため、推薦はしないこととしたとの報告があった。

#### 5. 編集委員会報告

田代理事より資料の通り、委員会開催状況、34巻1号の進捗状況、投稿論文の採択状況について報告があった。

#### 6. 研究活動委員会報告

天田理事より資料の通り、委員会開催状況の報告があった。49回大会終了後の6月中旬頃に研究活動委員会の引継ぎを行う予定であることが伝えられた。

#### 7. 渉外・国際交流活動の報告

石川理事より前回理事会以降で追加の情報はないことが伝えられた。

現在、GEAHSSの担当者として渉外・国際担当理事の石川理事が登録されているが、役員交代後に事務局からGEAHSSへ担当者変更の連絡を行うことが確認された。社会学系コンソーシアムの評議員についても役員交代後に事務局から変更の連絡を行うこととした。

#### 8. 入退会者の承認

戸ヶ里理事より資料の通り入会者7名の承認依頼があり、全員承認された。退会は26

名、資格停止退会は8名との報告があった。

学生会員への変更17名、常勤職にない会員の減額申請16名、シニア会員への変更3名の承認依頼があり、全員承認された。

(戸ヶ里前理事：前総務担当)

## 2) 2023年度第2回理事会(8月) ※2023-2024期役員

日時：2023年8月3日(木) 13:00~16:00

会場：ZOOM会議

出席者：金子会長、石川理事、海老田理事、三井理事、松繁理事、佐藤理事、平野理事、井口理事、西村大会長(第49回)、吉田大会長(第50回)、朝倉監事、黒田監事、事務局 平野(記 国際文献社)

欠席者：田代理事、美馬理事

### 1. 第49回大会について(西村大会長)

西村大会長より、第49回大会の決算報告があった。参加者数が231名と多く、黒字であったため、運営補助金を返金し、残りの黒字分は学会本体へ寄付することが伝えられた。

### 2. 第50回大会準備状況報告(吉田大会長)

吉田大会長より、企画案の説明があった。予算案についても説明があり、託児所を設置するか検討することとした。

### 3. 第49回大会での医学教育と社会学教育ワーキンググループ(WG)シンポジウム報告の扱いについて(金子会長)

金子会長より、医学教育と社会学教育WGシンポジウムの報告スライドの学会ホームページへの掲載についてWGから申し出があったことが伝えられた。報告スライドのみではなくシンポジウムでの議論が分かるような総括も合わせて掲載すべきであるとの意見があり、WGに依頼することとした。

### 4. 第50回大会理事会企画について(金子会長)

金子会長より、第50回理事会企画として薬害をテーマにしたシンポジウムを行うことが提案され、承認された。佐藤理事を中心に進めて行くこととする。

### 5. 今後の学会運営方針、並びに理事会審議の進め方について(金子会長、石川理事)

金子会長より、運営方法は従来通りとし、理事会は基本的にZoom開催とすることが提案され、承認された。

### 6. 編集委員会報告(海老田理事)

海老田理事より、編集委員会開催予定や論集刊行状況について報告があった。生成系AIについては文化庁等の動向を確認しつつ、情報共有していくことが伝えられた。

### 7. 研究活動委員会報告(三井理事)

三井理事より、役割分担や定例研究会開催予定について報告があった。大会報告の倫理的配慮について研究活動委員会での議論が伝えられ、抄録応募時にチェック項目を設ける方法で進めることとした。

#### 8. 看護・ケア研究部会報告

看護・ケア研究部会で副部会長の松繁理事が担当することとなった。松繁理事より、7月に研究部会を開催したこと、9月（オンライン）、3月（対面）の開催予定が伝えられた。

#### 9. 渉外・国際交流活動委員会報告（平野理事）

平野理事より、前委員会で報告のあった国際会議についてはニューズレターに掲載されていることが報告された。

#### 10. ニューズレター次号の発行予定など広報報告（井口理事）

井口理事より、次号の目次案について説明があった。ホームページの更新については、毎月の第3週目までに各委員会から掲載希望等を募り、井口理事が取りまとめて事務局へ依頼することとなった。メール配信については、前期理事会の申し合わせに公募情報の案内を追加し、今後さらに研究助成についても追加するか検討することとした。

#### 11. 入退会者の承認について（金子会長、石川理事）

石川理事より、入会者6名の承認依頼があり、全員承認された。退会は4名、逝去は1名との報告があった。金子会長より、推薦人のいない入会希望者への対応について説明があり、オンライン入会フォームを改修することが承認された。

#### 12. その他

金子会長より、第52回大会（2026年）について、立候補があった摂南大学の樫田美雄会員を大会長に推薦する提案があり、承認された。第53回大会（2027年）については次回理事会で検討することとした。

社会学系コンソーシアムは、現行通り総務理事と研究活動理事が担当することとなった。

医学教育と社会学教育WGの存続について提案があり、メンバーについては、前回のシンポジウム総括提出後に検討することとした。

ホームページのリニューアルについて、次回理事会にて検討することとした。

（石川理事：総務担当）

#### 7. 定例研究会報告（関東）

関東定例研究会では、12/2（土）午後、田代志門会員（東北大学）から、日本社会学会の倫理綱領等の改訂にともなって出た議論などを踏まえて、研究倫理についての現状、課題等についてお話しいただく予定である。詳細については後日、メールにて配信を行う。

（三井理事：研究活動担当）

#### 8. 定例研究会報告（関西）

関西定例研究会では、2024年1月20日（土）午後3-6時（予定）に、立命館大学朱雀キャンパス1F多目的室にて、「フーコーと精神医学」をテーマにして、書評会ないしラウンドテーブルというかたちの研究会を開催予定である。『フーコーと精神医学：精神医学批判の哲学的射程』（青土社）を上梓される蓮澤優先生（九州大学）、イタリア精神医療の医療人類学的研究をされている松嶋健先生のコメント、精神医療の保健医療社会学の観点からのコメント（美馬達哉

(仮) を交えて、領域横断的に議論を深める。

(美馬理事：研究活動担当)

## 9. 看護・ケア研究部会報告

### 1) 2023年度第1回定例研究会報告

日時：2023年7月1日(土) 14:00～17:00 (オンライン開催)

発表者：鷹田佳典さん(日本赤十字看護大学)

タイトル：sufferingとcommunityの関係について—compassionate communitiesのアイデアを手掛かりに

概要：

本報告では、報告者が別々の関心を寄せてきた<suffering>と<community>というテーマについて、死にゆくことやパブリックヘルスを専門にする社会学者のA・Kellehearによって2000年代初頭に提唱された<compassionate communities (comcom)>というアイデアを手掛かりに、その関係について検討した。<compassion>はしばしば「共感」と訳されることが多いが、そこには「苦しみを共にする」という意味合いが含まれており(共感共苦)、このことから<comcom>が<suffering>と<community>とを結びつけるアイデアであることが示唆される。参加者からは、<comcom>をめぐる理念と実践の関係や<comcom>における専門家の役割について示唆に富むコメントが提起された。

### 2) 2023年度第2回定例研究会のお知らせ・報告者募集

以下の内容で第2回研究例会を開催します。参加申し込み及び報告者を募集しています。

日時：2023年9月16日(土) 14:00～17:00 (オンライン開催)

場所：オンライン(お申し込みいただいた方へZoomのURLをお知らせします。)

参加費：無料

第2回例会の参加お申し込みフォームはこちらです。

<https://forms.gle/CngiH83soPzCqeaJA>

\*\*\*\*\*

報告者第1席：吉田澄恵さん(東京医療保健大学)

タイトル「『弱い』まま生きられる社会とは？」

報告者第2席：募集中(下記参照)

\*\*\*\*\*

### 3) 今後のお知らせ及び報告者の募集

第3回の定例研究会を下記のとおり開催します。

日時：2024年3月23日(土) 14:00～17:00 (対面開催の予定)

\*毎回2名の報告者を募集しております。

\*対面開催時、100km以上遠方からお越しの報告者には、ご本人が希望する際に限って、交通費

の半額（領収書を当日お持ちください）を補助します（ただし上限2万円）。  
事前に資料を印刷してご持参いただきますので、印刷の領収書（レシート）をもって実費支給補助制度もあります。

#### 【報告者募集】

研究例会でのご報告をご希望される方は、下記のフォームからお申し込みをお願いいたします。皆様からのお申し込みお待ちしております。

お申し込みフォームはこちら↓

<https://forms.gle/mYWe9KiMQXkbCNKX9>

(松繁理事：研究活動担当)

### 10. 渉外・国際交流委員会報告

以下の関連学会が開催されます。

The Gerontological Society of America (アメリカ老年学会)

開催日時：2023年11月8-12日

場所：アメリカ合衆国フロリダ州タンパ

内容：老年学の学際的な接近を行う、世界でも最大規模の学会。アメリカのみならず、世界における研究を行う。日本からは、例年、生理学やリハビリテーション科学、看護関連の研究者が多く参加している。

学術集会 URL:<https://www.gsa2023.org/>

(平野理事：国際・渉外担当)

### 11. 会員の動向

2022年5月11日～2023年7月31日までの申請者数は下記の通りです。

入会者数：通常会員 28名、共同発表会員（通常）8名、学生会員 12名

退会者数：通常会員 27名、通常会員（減額）2名、共同発表会員（通常）6名、  
共同発表会員（学生）1名、シニア会員 1名

逝去：通常会員 1名

資格喪失：通常会員 8名

学生会員への変更数：17名

シニア会員への変更数：3名

常勤職にない会員の会費減額申請数：16名

(学会事務局)

2023年7月31日に立岩真也先生が逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。(理事会)

### 12. 編集後記

ニューズレターNo.125は、2023-24期の理事会発足後の最初のニューズレターになります。今

号では5月に実施した第49回大会の開催報告に加え、来年5月の第50回大会のお誘い、および、7月に開催された看護・ケア研究部会の定例研究会、今後の関東、関西の研究例会の開催予告などについてお知らせいたしました。第49回は久々の全対面で開催され、充実した大会となりました。第50回大会も引き続き対面中心の開催を予定しておりますので、来年度のご予定に入れておいていただけますと幸いです。

日本保健医療社会学会ニューズレターは、No. 92からPDFファイルのメールマガジン形式で配信しています。また学会ホームページ (<https://square.umin.ac.jp/medsocio/>)でも公開しています。

(井口理事：広報担当)

発行：日本保健医療社会学会	編集：広報担当 (井口高志)
学会事務局：東京都新宿区山吹町 358-5	アカデミーセンター
jshms-office@as.bunken.co.jp	TEL：03-6824-9375